

三和、大島などで突風、ひょう被害 日本共産党議員団、現地調査と申入れ

10日の突風、雹（ひょう）などの被害は三和区を中心に安塚、大島、清里などに広がっています。

市役所の発表によると、17日現在、人的被害2件（軽傷）、屋根や外壁が飛散したなどの建物被害が76件（このうち住家28件、非住家48件）、窓ガラスの破損など160件、倒木、側溝破損などの道路被害31件、住家の倒木、電柱倒壊など109件となっています。

日本共産党議員団は馬場県議と協力しながら手分けをして被災地を回り現地調査、要望の聞き取りなどを行いました。私は11日、三和区の井ノ口、所山田、大島区大平、田麦などに入り被災状況を調査してきました。突風による容赦ない建物破壊、ピンポン玉ほどの大きな雹による被害は初めて見ました。雹は農作物を中心に、自動車の屋根、住宅の窓ガ



ラスなどに大きな被害をもたらしていました。

被災した人々からは、「一刻も早く安心して暮らせる状況を回復してほしい」といった声が寄せられ、16日には、中川市長に5項目の緊急申入れを行いました。以下はその内容です。

①倒壊した建物（住家、非住家問わず）の処理に要する費用を支援すること。②宅地内の倒木の除去費用を支援すること。③建物損壊による応急処置としてのブルーシートなどの購入や張り付けの費用を支援すること。④災害ごみの無料受入に関し、受入を被災地の近隣で行うこと、あるいは運搬費用を支援すること。⑤被災地において被災した市民への聞き取りを行い、困っていることを把握した上で、それらに対応すること。市長は検討を約束しました。

消火栓は初期消火のため 誰もが使えるものでなければ

12日の市議会総務常任委員会審査で、私は庁舎消火栓をとりあげ、「どんなものがどれだけあるか。どう管理しているか」から始まって訓練の実際まで質問を展開しました。右のイラストはその様子です。

担当課長は、まず、「消火栓は初期消火のために設置されている」とのべたあと、第1庁舎は14、第2は4、第3は3か所で設置されている。年2回、専門業者に入ってもらい点検している。バルブの径は40ミリでホースも40ミリ。昨年度は11月6日に第3庁舎の消火栓を使って訓練した」と答えました。

それを受けて、私からは、「実際の火災や訓練では職員のうち消防団員でなければノズルを持つことができないのか」と質問しました。これについて課長は、「いざというときの消火設備だ。初期消火に当たるべきものが特殊な技能を持ったものでなければならないということでは初期消火の意味をなさない。誰もが使えるものでなければならない」と答えました。

点検について私は、「実際の水が出るかどうかまで確認しないと消火栓の機能をチェックできない」として改善を求めました。担当課長は、「次の訓練までに、どのような方法があるのか、実際に水が出るのか（出せるのか）も含め、検討する」と約束しました。



今春、吉川区で巣立ったコウノトリの子どもたち3羽が北海道せたな町で元気にしていることが全国ニュースになりました。その親鳥夫婦はいま、吉川区で元気な姿を見せています。写真は14日、吉川区内で撮ったものです。



【シラヤマギク】（再掲）キク科の多年草。漢字で「白山菊」と書きます。草丈は1メートル以上になります。もっとも、今年初めて見かけたものは木陰にあり50センチくらいでしたが。花期は8月から10月、茎の先端に小さな白い花をパラパラと咲かせます。キク科の花のなかでも個性派です。花言葉は「丈夫」「思いやり」など。写真は7日、吉川区の町田城跡に至る道で撮影。

はしづめ法一の 活動レポート

No.2220 2025.9.21

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3627

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznys_0808@yahoo.co.jp

URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

私の一般質問は24日の午前10時前後の予定です。今回は学校給食などで教育長に質問します。

春よ来い

第八六七回

復活

先週の日曜日、コンビニで買ったおにぎりを食べながら、くびき野フオーク村主催の「サンディーライブ」へと急ぎました。

ライブの会場は直江津の学びの交流館1階ホールです。諏訪OJ（諏訪兄弟の弟・義則さん）さんの演奏復活をこの目で見たいと思い、出かけました。

到着したのは十二時五十分過ぎでした。会場に入ると、観客席の後ろの空間に永井さん、ドラさんなどフオーク村のスタッフのみなさんや諏訪さん兄弟がいました。輪の中心には車椅子に乗った諏訪OJさんがいて、おしゃべりが弾んでいました。

諏訪OJさんは二年ほど前に脳内の血管が切れて倒れました。その病気で半身不随になってしまったことは直江津の三八市でトマトやメロンなどを販売しているお兄さんから直接聞いていました。正直言うところ、そのとき私は、「弟さん、もう二度と歌えないかも知れない」と思いました。

それだけに今回、「サンディーライブ」で諏訪OJさんが歌を歌うということを知ったときは信じられず、ものすごくうれしく思ったのです。そして、「おうちのイサムも生きていてくれればなあ」と思いました。

目の前の諏訪OJさんは、思っていた以上に元気で明るく振舞っていました。左手、左足が不自由になっても右手は動かし、しゃべりは相変わらず活発でした。

「もう酒は飲めないのか」

「いや、お医者さんは飲んでいいとも駄目とも言っていない。だから俺はおちょこでグイッとやるだけだ」

「グイッとでなくてグイ、グイなんじゃないの。それに、ちゃんとしゃべられるね」

「口は大丈夫、いっぱいしゃべれるもんだから、母ちゃんにいつも怒られている。しゃべりすぎだ……」

「演奏は？」

「（ギターは弾けないから）アカペラさ。でも、右手を動かして、左手も演奏しているイメージで歌っている」

ライブはフオーク村の武田代表の、「きょうは、久しぶりにお帰りのさいの諏訪OJさんです」という挨拶から始まりました。そして、いよいよ諏訪OJさんとキーボードのマキさんの登場です。

冒頭、諏訪OJさんは言いました。

「二年歌わなかったら、音痴になってしまっています。ここへ出るのはおこがましいんですが、一生懸命、丁寧に歌います。お付き合いください」と。そして浜田省吾の『悲しみは雪のように』から始めました。

♪君の肩に哀しみが 雪のように積もる夜には……

滑り出しは順調でした。しかし、途中で、「歌えない」という声を出し、止まってしまうました。それを見て、仲間の一人が「頑張れ！」と大きな声を出すと、励ましに伝えて再び歌いました。そばでキーボードを演奏していたマキさんも心配そうに、歌にうなづいたり、時々、自らも歌ったりして励ましていました。こういう場面は二曲目の『虹』、三曲目の『流星』、四曲目の『岬めぐり』でも続きました。

歌の完全復活はまだですが、しゃべりは快調でした。「元々はこんなじゃないかった」「aマイナー、eマイナー、こっちは水はあーマイナー」「こんで、サンディライプのハードルは下がったと思う。練習不足とは言えないくらい一生懸命練習した」。時折、ジョークも入りました。

歌が終わった後、武田さんは、「ライブなんて夢の夢だった。よくここまで頑張ってくれた。うれしい」と言いました。十一月には恒例の「あの頃の青春コンサート」があります。諏訪OJさんはそれにも参加するといひます。諏訪OJさんの復活のドラマは続きます。まだ行かなきゃ。

日米豪共同訓練を中止せよ！

16日から関山演習場などではいまる日米豪共同訓練を前に15日、高田スポーツセンター駐車場において反対集会が行われました。集会には県内各地、そして長野県からも参加者があり、160人ほどが集まりました。

主催者を代表して、市民連合・上越の片岡豊さんが、今回の訓練の背景についてふれながら、今回の訓練が憲法違反のものであるとして中止を求めました。その後、社民党、日本共産党、新社会党、県労連の代表、地元県議などが連帯の挨拶をしました。

私も日本共産党を代表して挨拶しました。その際、11年前の11月1日に俳優だった菅原文太さんが沖縄県那覇市で行った「戦争は全体してはいけない」という最後の演説を紹介しました。そして、今回の訓練は憲法違反の訓練であり、集団的自衛権の行使の準備のための訓練だ。しっかりと反対していこうと訴えました。

17日は自衛隊関山演習場前で現地抗議集会でした。こちらは30人ほどの参加者でしたが、演習場内の人たちに向かって、戦争準備はやめよう、平和を守ろうと訴えました。



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016～0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	9月10日(水)	9月17日(水)
上越消防署	0.050	0.053
上越南消防署	0.043	0.043
新井消防署	0.047	0.057
頸北消防署	0.050	災害対応中
頸南消防署	0.070	0.070
東頸消防署	0.043	0.057
名立分遣所	0.063	0.050
高士分遣所	0.057	災害対応中